

2020 年度 2・3・4 年次アンケート調査の結果報告

2021 年 3 月

東京女子大学 IR専門委員会

2020年度2・3・4年次アンケート調査の結果報告

本学では、毎年4月のオリエンテーション時に、新2年次、新3年次、新4年次を対象とした「教育・学生生活に関するアンケート調査」（以下「在学生アンケート」と表記）を行っている。今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、6月から7月にかけてWeb上で在学生アンケートを行った。このアンケート調査は、在学生が本学の教育内容や学生生活についてどのような意識を持っているのか、また本学学生の学習実態などを明らかにすることで、今後の教育改善に活かすことを目的としている。ここでは、主な項目の分析結果を中心に報告する。

調査概要は以下の通りである。

目的：東京女子大学に通っている学生の学習及び大学生活に関する意識・実態調査

方法：Web調査

対象：東京女子大学に在籍している2～4年次学生、3015名（5月1日時点、休学者は含む、留学者は含めない）
（うち：2年次学生 893名、3年次学生 1069名、4年次学生 1053名）

調査期間：2020年6月8日～2020年7月10日

有効回答数：2111名

（うち：2年次学生 681名、3年次学生 735名、4年次学生 695名）

有効回答回収率：70.0%

（うち：2年次学生 76.3%、3年次学生 68.8%、4年次学生 66.0%）

調査項目：2019年度までに実施してきた調査結果を踏まえ、「学習」、「学生生活」、「課外・学外の活動」、「図書館」、「その他施設」などの項目で構成している。

本報告書では、2年次、3年次、4年次などの表記が出てくるが、在学生アンケートは、年度初めに実施しているため、例えば、2年次の授業に対する満足度は、当該学生が1年次であった時の授業の満足度を示す。同様に、3年次の授業に対する満足度は当該学生が2年次であった時の授業の満足度、4年次の授業に対する満足度は当該学生が3年次であった時の授業の満足度のことである。

また、本報告書で用いるデータは全数調査によるものなので有意確率（p値）は報告せず、平均値・標準偏差および効果量（ η^2 ）のみを報告する。なお、 η^2 については、Cohen(1988)の基準 $\eta^2 = .01$ (small)、 $\eta^2 = .06$ (medium)、 $\eta^2 = .14$ (large) を用いた。

なお、参考のため過去5年間の回収率（2～4年次学生全体）を表1に示しておく。今年度は、初めてのWeb調査であったため、回収率が例年より低くなった。

表1 年度別に見た2～4年次アンケートの回収率

2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度 (Web調査)
84.7%	82.8%	83.2%	84.3%	84.9%	70.0%

(1) 授業に対する満足度について

「授業全般」、「全学共通カリキュラム」、「学科科目（専門）の授業」の3つのカテゴリー別に、過去1年間の学修を通じての授業の満足度を尋ねたところ、表2のような結果となった。「大変満足している」、「満足している」、「どちらかと言えば満足している」の3つを全体した割合は、3つのカテゴリー全てで9割近いことから、授業に対する満足度は全般的に高いと言える。

表2 授業に対する満足度

	全く満足 していない	満足 していない	どちらかと 言えば満足 していない	どちらかと 言えば満足 している	満足 している	大変満足 している	履修 していない
	%(n)	%(n)	%(n)	%(n)	%(n)	%(n)	%(n)
授業全般	0.5 (10)	1.7 (34)	8.1 (164)	39.6 (803)	44.6 (904)	5.6 (113)	
全学共通 カリキュラム	0.5 (10)	1.9 (39)	8.4 (171)	38.5 (781)	42.0 (852)	7.6 (155)	1.0 (20)
学科科目 (専門)の授業	0.7 (14)	1.7 (35)	7.5 (152)	28.0 (567)	46.4 (941)	15.4 (313)	0.3 (6)

注：各項目について欠損値（83人）を除いて集計した結果である。

授業に対する満足度を専攻別、学年別、志望順位別に比較するため、まず「大変満足している」=6、「満足している」=5、「どちらかと言えば満足している」=4、「どちらかといえは満足していない」=3、「満足していない」=2、「全く満足していない」=1と点数化し、それぞれの項目の平均値および標準偏差を算出した（表3～表8）。

表3 専攻別に見た「授業全般」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.25	0.894	216	$\eta^2 = .037$
哲学	4.62	0.780	82	
日本文学	4.68	0.789	225	
英語文学文化	4.45	0.790	108	
歴史文化・史学	4.48	0.786	197	
国際関係	4.36	0.818	221	
経済学	4.34	0.765	167	
社会学	4.46	0.856	109	
コミュニティ構想	4.34	0.883	77	
心理学	4.71	0.723	173	
コミュニケーション	4.32	0.750	223	
言語科学	4.43	0.971	53	
数学	4.20	0.809	86	
情報理学	4.24	0.899	91	
合計	4.43	0.823	2028	

表4 専攻別に見た「全学共通カリキュラム」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.18	0.996	216	$\eta^2 = .017$
哲学	4.48	0.892	82	
日本文学	4.60	0.916	225	
英語文学文化	4.46	0.901	108	
歴史文化・史学	4.49	0.935	197	
国際関係	4.32	0.987	221	
経済学	4.31	0.961	167	
社会学	4.39	0.990	109	
コミュニティ構想	4.47	1.021	77	
心理学	4.54	0.886	173	
コミュニケーション	4.33	0.943	223	
言語科学	4.42	1.100	53	
数学	4.23	1.014	86	
情報理学	4.38	1.052	91	
合計	4.40	0.966	2028	

表5 専攻別に見た「学科科目（専門）の授業」に対する満足度

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.29	1.040	216	$\eta^2 = .054$
哲学	4.89	0.770	82	
日本文学	4.93	0.933	225	
英語文学文化	4.65	1.044	108	
歴史文化・史学	4.65	0.888	197	
国際関係	4.52	0.993	221	
経済学	4.53	0.917	167	
社会学	4.66	0.974	109	
コミュニティ構想	4.56	1.057	77	
心理学	5.08	0.723	173	
コミュニケーション	4.59	0.949	223	
言語科学	4.64	1.039	53	
数学	4.37	0.908	86	
情報理学	4.34	1.002	91	
合計	4.63	0.968	2028	

表3～表5は、専攻別の授業に対する満足度に関する3項目の平均値および標準偏差を示している。これらの表を見ると分かるように、全体的に授業に対する満足度は高く、効果量から専攻による大きな違いは見られない事が分かる。

表6～表8は、学年および志望順位別に見た授業に対する満足度である。学年別に見ると、授業満足度に関する3項目いずれにおいても、4年次生の満足度が最も高くなった。また志望順位が上がるにつれ、満足度が高くなる傾向が見られる。しかし、効果量を見ると、学年間や志望順位間に大きな違いは見られない。

表6 学年および志望順位別に見た「授業全般」に対する満足度

		平均値	標準偏差	人数	効果量
学年	2年次	4.41	0.813	653	$\eta^2 = .016$
	3年次	4.32	0.843	714	
	4年次	4.57	0.792	661	
志望順位	第一志望	4.54	0.796	655	$\eta^2 = .015$
	第二志望	4.51	0.863	288	
	第三志望	4.41	0.822	270	
	第四志望以下	4.31	0.817	815	

表7 学年および志望順位別に見た「全学共通カリキュラム」に対する満足度

		平均値	標準偏差	人数	効果量
学年	2年次	4.41	0.882	653	$\eta^2 = .006$
	3年次	4.30	0.951	714	
	4年次	4.48	1.050	661	
志望順位	第一志望	4.49	0.987	655	$\eta^2 = .018$
	第二志望	4.55	0.921	288	
	第三志望	4.48	0.865	270	
	第四志望以下	4.24	0.975	815	

表8 学年および志望順位別に見た「学科科目（専門）の授業」に対する満足度

		平均値	標準偏差	人数	効果量
学年	2年次	4.55	0.936	653	$\eta^2 = .015$
	3年次	4.55	1.011	714	
	4年次	4.80	0.931	661	
志望順位	第一志望	4.73	0.913	655	$\eta^2 = .009$
	第二志望	4.72	1.042	288	
	第三志望	4.61	0.925	270	
	第四志望以下	4.53	0.988	815	

次の図1～図3では、授業満足度について、学年別および志望順位別の違いを同時に示しておく。授業満足度に関する3項目いずれにおいても、他の学生より授業満足度が低い傾向にある第四志望以下の学生も、4年次には、2年次と比べて満足度が高くなっている。

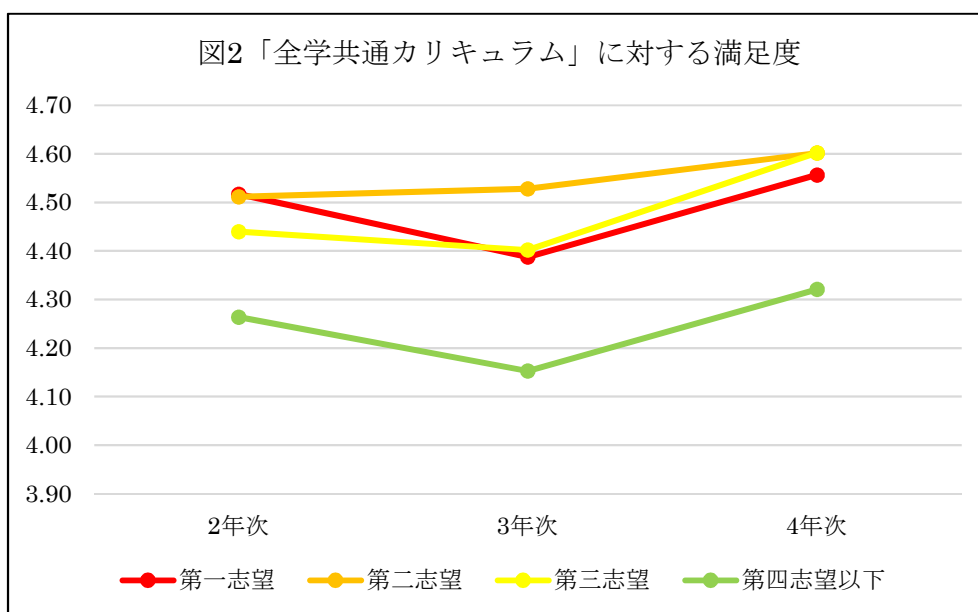
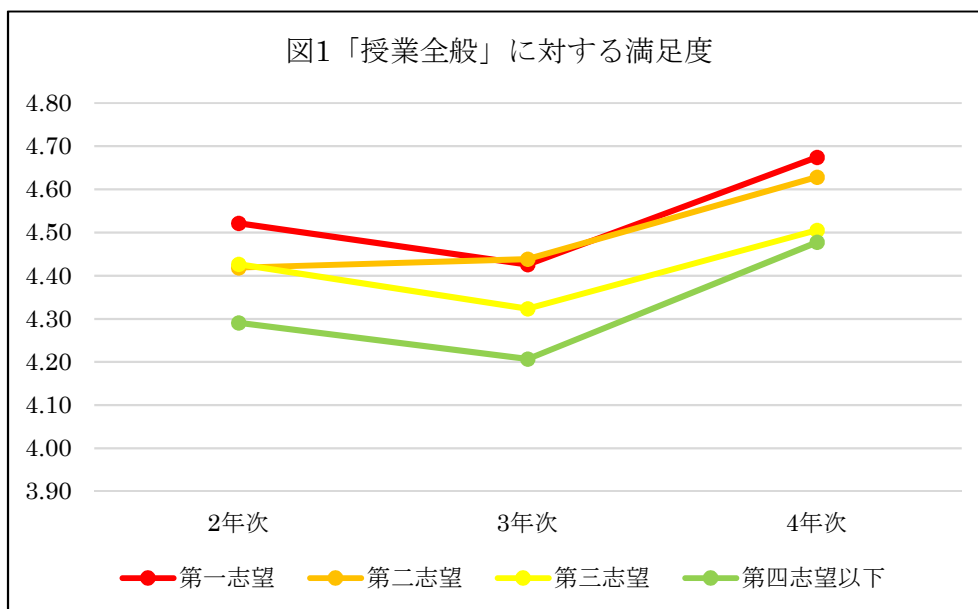
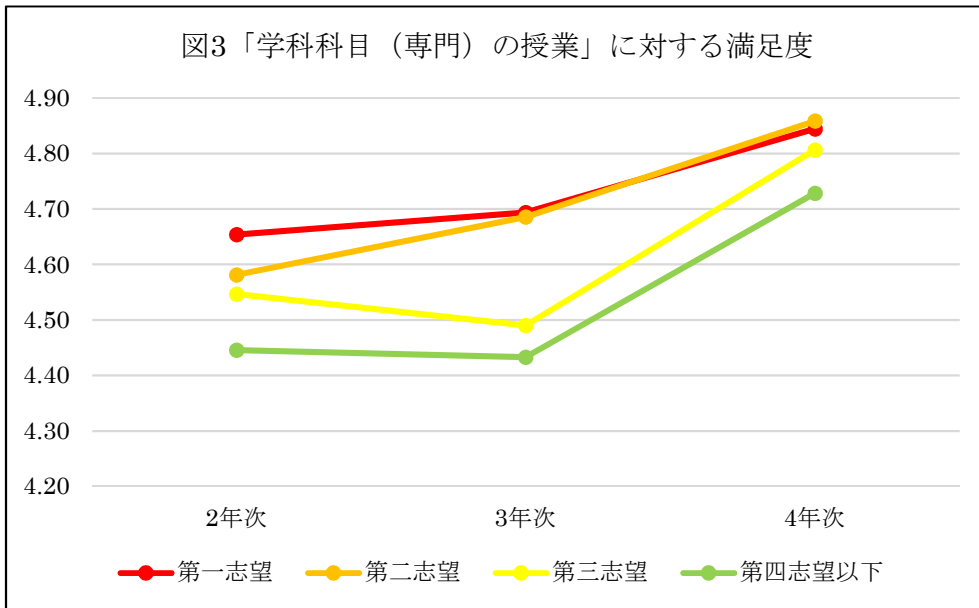


図3 「学科科目（専門）の授業」に対する満足度



(2) 身についたスキルに関する項目の集計・分析結果

「昨年1年間の学びを通じてどのようなスキルを身につけることが出来たと思うか」を調べるため、「学術的な文献の読解力」、「人の話を聞いて、要点をつかむ力」、「プレゼンテーションにおいて、効果的に話をする力」、「ディスカッションにおいて、論理的に意見を述べる力」、「論理的でわかりやすい文章を書く力」、「わかりやすいプレゼンテーション資料を作成する力」、「パソコンで図表を作成する力」、「課題に応じて、適切な資料を収集する力」、「相手や場面に応じたコミュニケーション力」、「グラフや表で示された統計資料を理解できる力」の10項目について、「全くそう思わない」(=1)から「非常にそう思う」(=6)の6件法で尋ねた。

その結果が図4である。「学術的な文献の読解力」、「人の話を聞いて、要点をつかむ力」、「課題に応じて適切な資料を収集する力」、「相手や場面に応じたコミュニケーション力」の4項目は、「非常にそう思う」「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の肯定的な回答が8割を超えている。その他の項目でも、肯定的な回答が6割を超えており、多くの学生がこれらのスキルを身につけることができたと考えている事が分かった。

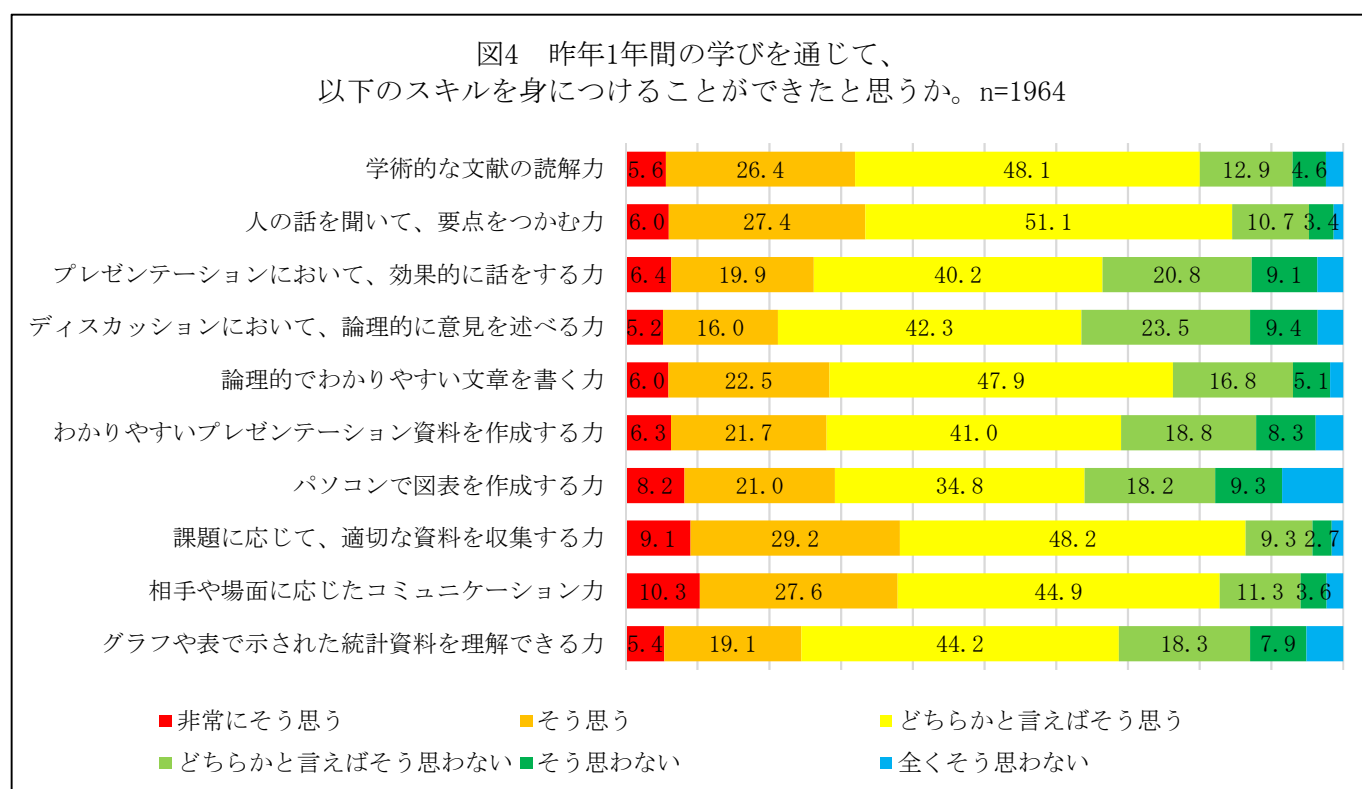


図4に示す10項目について、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「スキル総合得点」(M=3.98、SD=0.767、最大=6、最小=1；因子分析で一次元性も確認。 $\alpha = .887$)として、以降の分析に使用した。

専攻別にスキル総合得点を見ると（表9）、コミュニティ構想専攻と心理学専攻が最も高く（M=4.24）、数学専攻が最も低く（M=3.67）なった。効果量を見ると、 $\eta^2 = .036$ であり、専攻間におけるスキル総合得点の違いは大きくはない。しかし、平均が3点台の専攻が大半であり、今後は授業内でプレゼンテーションやディスカッションの機会を積極的に取り入れることで汎用的なスキルの更なる向上に努めたい。

表9 専攻別に見た「スキル総合得点」

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	3.98	0.812	214	$\eta^2 = .036$
哲学	4.01	0.836	80	
日本文学	4.09	0.755	222	
英語文学文化	3.80	0.777	106	
歴史文化・史学	3.88	0.754	194	
国際関係	3.94	0.733	212	
経済学	3.97	0.714	160	
社会学	3.90	0.709	101	
コミュニティ構想	4.24	0.720	74	
心理学	4.24	0.680	169	
コミュニケーション	4.02	0.768	214	
言語科学	4.02	0.752	50	
数学	3.67	0.865	79	
情報理学	3.69	0.725	89	
合計	3.98	0.767	1964	

スキル総合得点を学年別に見ると、表10の結果となった。学年別では、4年次のスキル総合得点が他学年より高い。効果量を見ると $\eta^2 = .003$ であり、学年間におけるスキル総合得点の違いは大きくない。

表10 学年別に見た「スキル総合得点」

学年	平均値	標準偏差	人数	効果量
2年次	3.97	0.706	632	$\eta^2 = .003$
3年次	3.93	0.759	695	
4年次	4.03	0.828	637	
合計	3.98	0.767	1964	

(3) 身についた能力に関する項目の集計・分析結果

昨年1年間の学びを通じて、以下の図5に示される14項目の能力を身につけることが出来たと思うかどうかを尋ねた結果を示す。ほとんどの項目で肯定的な意見が7割を超える結果となった。例年、「率先してグループをまとめリードする力」「数字やデータに基づいて物事を考える力」の肯定的な意見は他と比べて低くなっているため、データ・サイエンス科目を全学的に取り入れる、グループワークの機会を増やすなどの方策を検討する必要がある。

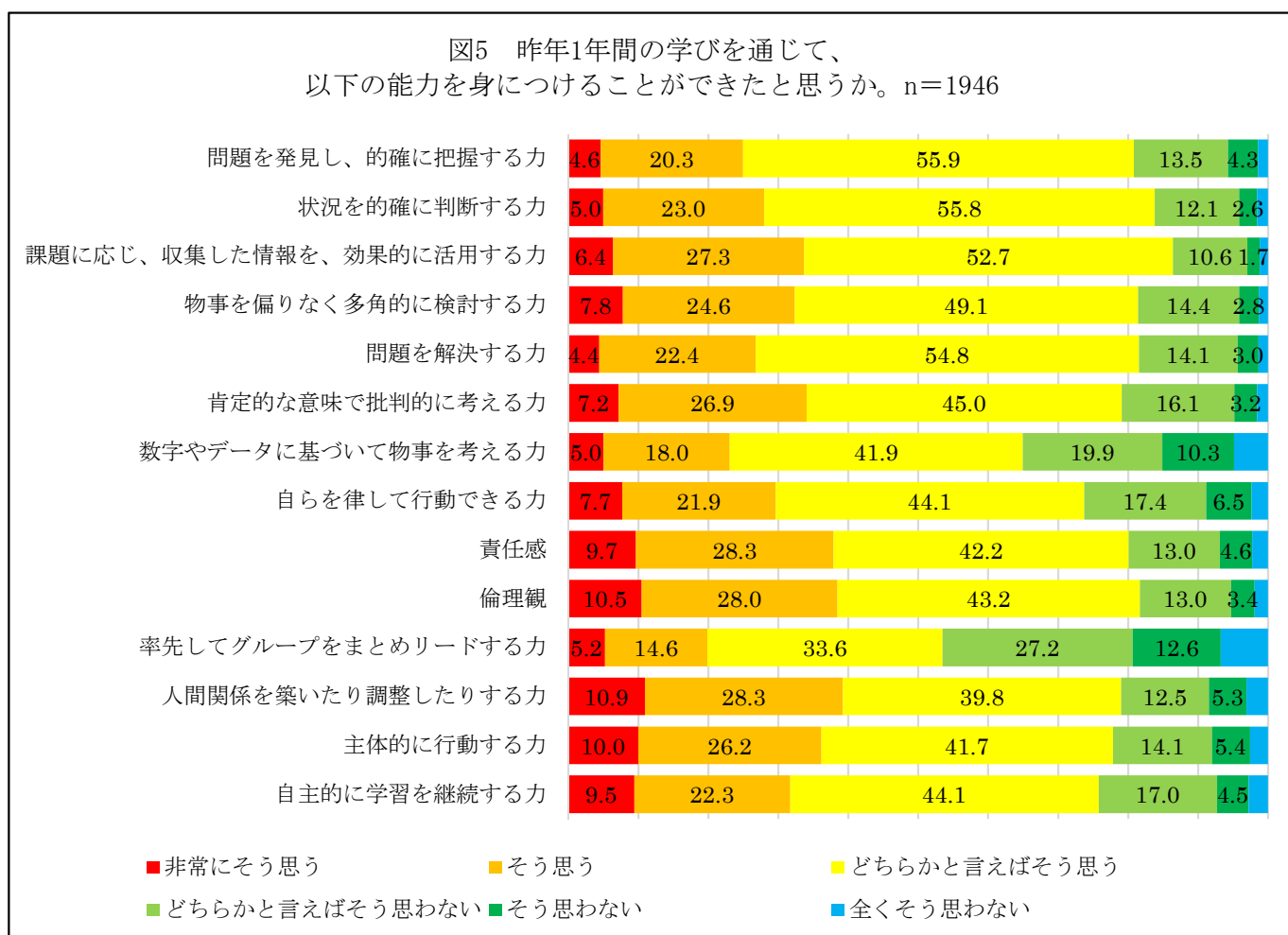


図5に示す14項目についても、得点を合計しそれを項目数で割った項目平均を算出し、「能力総合得点」(M=4.06、SD=0.725、最大=6、最小=1、因子分析で次元性も確認。α=0.920)として以降の分析で用いた。

表 11 専攻別に見た「能力総合得点」

専攻	平均値	標準偏差	人数	効果量
国際英語	4.03	0.718	212	$\eta^2 = .013$
哲学	4.13	0.768	80	
日本文学	4.13	0.764	221	
英語文学文化	4.08	0.851	105	
歴史文化・史学	4.03	0.723	192	
国際関係	4.04	0.681	212	
経済学	4.03	0.675	157	
社会学	4.05	0.719	99	
コミュニティ構想	4.21	0.645	74	
心理学	4.20	0.642	169	
コミュニケーション	3.99	0.722	211	
言語科学	4.12	0.861	48	
数学	3.88	0.813	79	
情報理学	3.89	0.640	87	
合計	4.06	0.725	1946	

能力総合得点を専攻別に見ると（表 11）、コミュニティ構想専攻（=4.21）と心理学専攻（=4.20）の平均値が、他の専攻より若干高い。しかし、効果量は $\eta^2 = .013$ と小さく専攻間の差はさほど大きくないことがわかる。

能力総合得点を学年別で見た場合（表 12）、学年が上がると能力総合得点も高くなる事がわかる。しかし、効果量を見ると $\eta^2 = .018$ と小さいため、学年間の差は殆ど見られない。

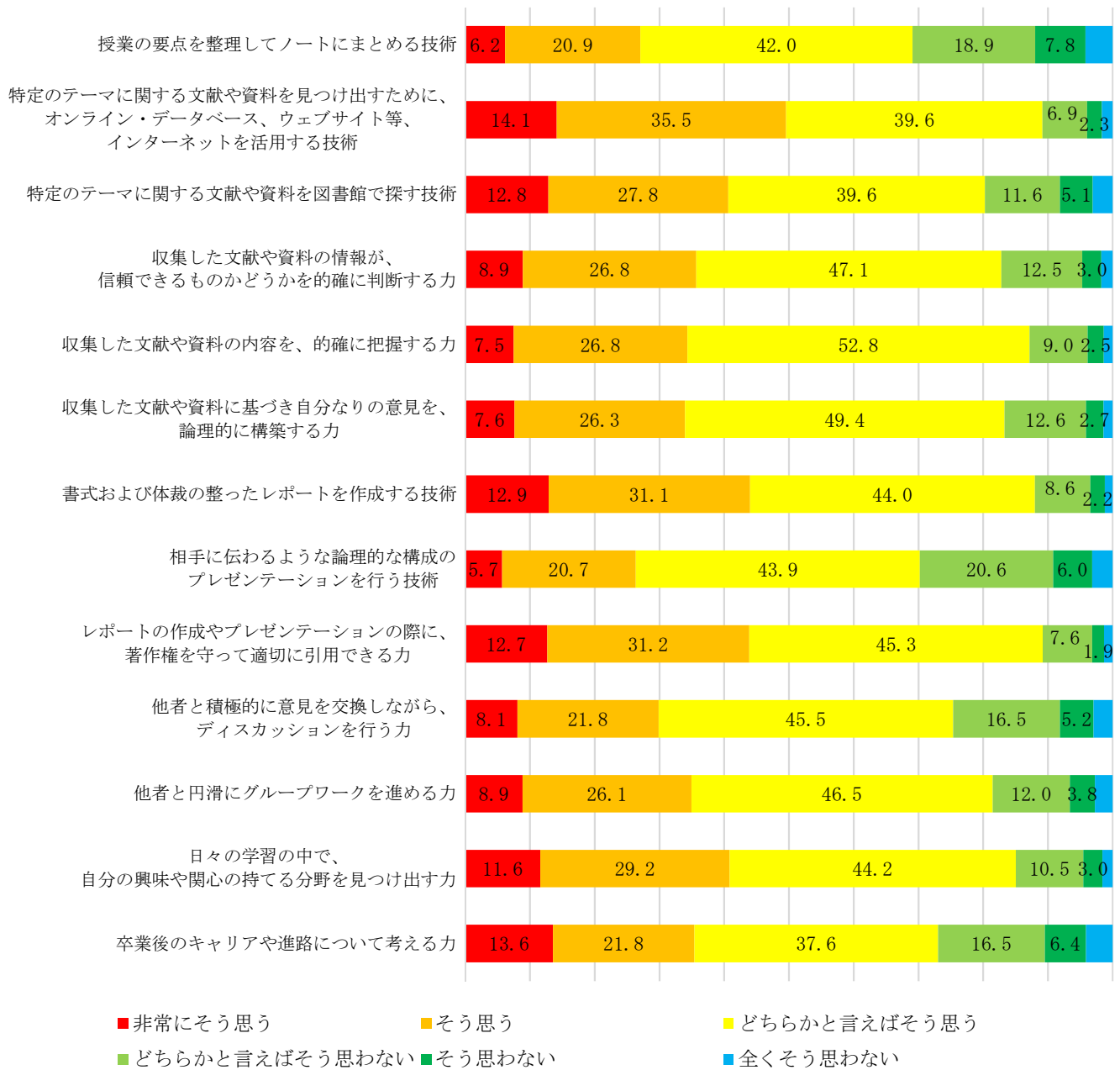
表 12 学年別で見た「能力総合得点」

学年	平均値	標準偏差	人数	効果量
2年次	3.98	0.666	625	$\eta^2 = .018$
3年次	4.00	0.710	690	
4年次	4.20	0.776	631	
合計	4.06	0.725	1946	

(4) 身についた技術に関する項目の集計・分析結果

図6は、昨年1年間の学びを通じて身につけることができたと思う技術13項目の分析結果である。「授業の要点を整理してノートにまとめる技術」、「相手に伝わるような論理的な構成のプレゼンテーションを行う技術」、「他者と積極的に意見を交換しながら、ディスカッションを行う力」、「卒業後のキャリアや進路について考える力」を除いた9項目で、肯定的な割合が8割を超えた。最も低かった「授業の要点を整理してノートにまとめる技術」でも69.1%と7割に近く、全体的な底上げに向けて授業改善に努めていきたい。

図6 昨年1年間の学びを通じて、
以下の技術を身につけることができたと思うか。n=1932



前述 13 項目のうち、「授業の要点を整理してノートにまとめる技術」と「卒業後のキャリアや進路について考える力」を除いた（因子分析結果が 0.4 未満のため）11 項目に対して「非常にそう思う」=6、「そう思う」=5、「どちらかと言えばそう思う」=4、「どちらかと言えばそう思わない」=3、「そう思わない」=2、「全くそう思わない」=1 として、因子分析（最尤法、プロマックス回転）を行った結果を表 13 に示す。

表 13 昨年 1 年間の学びを通じて、身につけることができたと思う技術に関する項目の因子分析結果
（最尤法、プロマックス回転）

	F1	F2	共通性
情報探索・処理に関する能力や技術 ($\alpha = .905$)			
収集した文献や資料の内容を、的確に把握する力	0.876	-0.012	0.754
収集した文献や資料の情報が、信頼できるものかどうかを的確に判断する力	0.838	-0.042	0.658
特定のテーマに関する文献や資料を見つけ出すために、 オンライン・データベース、ウェブサイト等、インターネットを活用する技術	0.779	-0.042	0.565
特定のテーマに関する文献や資料を図書館で探す技術	0.754	-0.062	0.511
収集した文献や資料に基づき自分なりの意見を、論理的に構築する力	0.706	0.136	0.643
書式および体裁の整ったレポートを作成する技術	0.621	0.135	0.513
レポートの作成やプレゼンテーションの際に、著作権を守って適切に引用できる力	0.569	0.181	0.491
学生生活スキル ($\alpha = .839$)			
他者と積極的に意見を交換しながら、ディスカッションを行う力	-0.103	0.966	0.814
他者と円滑にグループワークを進める力	-0.030	0.834	0.663
相手に伝わるような論理的な構成のプレゼンテーションを行う技術	0.202	0.567	0.513
日々の学習の中で、自分の興味や関心の持てる分野を見つけ出す力	0.297	0.416	0.422
因子相関	0.655		

第1因子は、「収集した文献や資料の内容を、的確に判断する力」、「収集した文献や資料の情報が信頼できるのかどうか的確に判断する力」、「特定のテーマに関する文献や資料を図書館で探す技術」など、課題を進めるにあたって必要な能力に関する項目が多かったため、この因子は「情報探索・処理に関する能力や技術」を表わすものと解釈できる。また、第2因子は、「他者と積極的に意見を交換しながらディスカッションを行う力」、「他者と円滑にグループワークを進める力」といった、学生生活を送る上で必要な項目に因子負荷量が高かったため、この因子は「学生生活スキル」を表わすものと解釈した。

以降の分析では、これら11項目について、第1因子に負荷量の高かった7項目の得点を全体し項目数で割った「情報探索・処理得点」(M=4.31、SD=0.791、 $\alpha = .905$)と、第2因子に負荷量の高かった4項目の得点を全体し項目数で割った「学生生活スキル得点」(M=4.10、SD=0.867、 $\alpha = .839$)を作成し、以降の分析に利用した。

表14 昨年1年間の学びを通じて、身につけることができたと思う技術に関する専攻別比較

専攻	情報探索・処理得点				$\eta^2 = .048$	学生生活スキル得点				$\eta^2 = .042$
	平均値	標準偏差	人数	効果量		平均値	標準偏差	人数	効果量	
国際英語	4.15	0.835	212		4.26	0.870	212			
哲学	4.41	0.839	78		4.27	0.806	78			
日本文学	4.50	0.823	220		4.20	0.920	220			
英語文学文化	4.39	0.919	104		4.06	0.973	104			
歴史文化・史学	4.42	0.704	190		3.96	0.806	190			
国際関係	4.35	0.795	211		4.05	0.857	211			
経済学	4.19	0.694	156		4.04	0.762	156			
社会学	4.27	0.689	99		4.14	0.916	99			
コミュニティ構想	4.44	0.864	74		4.31	0.889	74			
心理学	4.56	0.643	167		4.26	0.762	167			
コミュニケーション	4.17	0.714	208		4.14	0.834	208			
言語科学	4.36	0.840	48		4.18	0.880	48			
数学	3.85	0.860	79		3.68	0.856	79			
情報理学	4.06	0.745	86		3.56	0.824	86			
合計	4.31	0.791	1932		4.10	0.867	1932			

表14は、昨年1年間の学びを通じて身につけることができたと思う技術に関する得点を、専攻別に比較したものである。情報探索・処理得点、学生生活スキル得点の両方とも、専攻間の差は小さいことがわかる(情報探索・処理得点の効果量 $\eta^2 = .048$ 、学生生活スキル得点の効果量 $\eta^2 = .042$)。

最後に、学年別の情報探索・処理得点と学生生活スキル得点を比較すると（表 15）、4 年次に最も高くなることがわかる。効果量を見ると、情報探索・処理得点で $\eta^2 = .019$ 、学生生活スキル得点で $\eta^2 = .004$ と小さく、学年間の差はほとんど見られない。

表 15 昨年 1 年間の学びを通じて、身につけることができたと思う技術に関する学年別比較

	学年	平均値	標準偏差	人数	効果量
情報探索・処理得点	2 年次	4.24	0.730	618	$\eta^2 = .019$
	3 年次	4.23	0.801	685	
	4 年次	4.46	0.816	629	
学生生活スキル得点	2 年次	4.06	0.777	618	$\eta^2 = .004$
	3 年次	4.06	0.868	685	
	4 年次	4.17	0.944	629	